

次号予告

グラフ＝トランスファー・テクニック(2).....	東大病院	福屋 靖子
展望		
らの理学療法.....	国立療養所松丘保養園	角谷 亮蔵
結核の作業療法.....	国立療養所東京病院	若井 光子
片マヒ患者のリハビリテーションとリスク管理.....	長尾病院	服部 一郎
講座		
トランスファー・テクニック(2).....	東大病院	福屋 靖子
手指の運動学(2).....	三愛会伊藤病院	荻島 秀男
運動療法の実践(1).....	阪大病院	武富 由雄
器具の管理＝ステンレス器具の手入れ.....	甲州中央温泉病院	藤本 欽也
木工室の整理.....	甲州中央温泉病院	斎藤 延男
隣接領域から＝脊髄損傷の看護.....	国立箱根療養所	立谷時, 他
私の職場＝足立学園——あるチームリーダーの立場から.....	足立学園	高松 鶴吉
座談会＝専門職への道.....	司会 都立心身障害者福祉センター	寺山久美子
第5回 PT 学会特別講演		
運動のエレクトロニクス.....	福島県立医科大学	塚原・進
研究と報告		
収尿器の改良試作に関する研究.....	九州労災病院	広重 靖
歩行可能となった CP 児の運動発達段階.....	整肢療護園	関 勝男
精神病患者への職業リハビリテーション・サービス.....	アガベ授産所	松井 亮輔
とびら.....	九州労災病院	米倉 豊子

編集後記

本年度第1号をお送りいたします。
読者の皆様のご協力を得まして、このPT・OT誌も5年めを迎えることができました。

昨年は、読者の方々からも、ずいぶんいろいろご意見をいただきました。そこで、本年は、もっと積極的に皆様の声を募ろうと、「読者の声」の葉書きを作りました。ふだん考えていらっしやることなど、どんなご意見でも結構でございますので、お寄せ下さい。お待ちしております。

さて、本年は、いろいろの意味で問題の多い年になるのではないかと思います。特例試験の問題をはじめ、PT・OT 養成校の再検討および卒業後教育をどうするかといった教育問題等々、どれもPT・OT に切実な問題だと思います。これら1つ1つの問題を他人任せではなく、自分の問題としていっせつにとらえていって、解決、いや、そこまではいかなくとも、少なくとも解決の方向が見出せるような、何かの手がかりが出せるような1971年にしたいものだと思います。

予告しておりました特集「運動のエレクトロニクス」は著者の都合により、今号は、お休みさせていただきます。(Y)

今、日本のPT・OTは重大な岐路にたたされている。

「経過措置としての特例試験」が議員立法の一括

裁決によって延期されるかもしれないのだ。本来、リハビリテーションの社会的要請の中で専門職としてのPT・OTの育成が認識され、それ以前から医療類似行為としてPTの一部を担っていた病院マッサージ師との関連において、あくまでも経過措置として、特例試験が過去5年間行なわれてきた、これはOTの領域においても同様である。

そこでこの問題を把握するには、歴史的な経過と現実の諸矛盾を明確にとらえたうえで、はたして日本PT・OTが築き上げてきた努力と実績をどのように評価するのか、あるいは育成のための医療行政はどの程度満足のいくものであったかという教育問題の切開、そしてなによりも「患者」を中心としたリハビリテーション医療の全体的視野から考察されねばならない。

これは原則であり、例外のない原則である。いっさいの「政治的配慮」は排除されなければならない。

確実におとずれるであろう新たな状況にどのように対応するか、これにはむしろ前進的に業務分担と教育の2本を柱に医療行政の本質に立ち向かうことでしかない。特例延長には反対である。

(M)

編集委員

砂原 茂一
国立療養所東京病院長

上田 敏
東大病院リハビリ部

高橋 勇
整肢療護園医務部長

松村 秩
福屋 靖子

野本 卓
日本理学療法士協会

鈴木 明子
寺山 久美子

横田 和子
日本作業療法士協会

編集顧問

相沢 豊三
秋元 波留夫

天児 民和
飯野 三郎

大島 良雄
勝木 司馬之助

河邨 文一郎
小池 文英

児玉 俊夫
杉山 尚

椿 忠雄
津山 直一

水野 祥太郎

編集同人

浅野 達雄
井上 正吾

遠藤 文雄
大塚 欣壮

荻島 秀男
小野 啓郎

中村 裕
浜島 良知

原 武郎
細川 忠義

宮地 昭郎
和才 嘉昭

米倉 豊子
(担当 乾・矢島・三輪)